

● 展示会に行って意見を出しましょう ●

～ 真実と平和を学ぶ よりよい教科書を 子どもたちに～

子どもたちには、真実を伝え、それをもとに考えを深め、みんなで楽しく学んでいくことができる教科書を手渡したいものです。そのためにも、教科書採択は、子どもと一緒に教科書を使う教職員や保護者、市民の意見をもとにして行われるべきではないでしょうか。

＜展示会で意見を書く時の参考にしてください＞

- 教科書採択にあたっては、子どもと一緒に教科書を使う教職員や保護者、市民の意見をしっかり聞き、それをもとにして選んでください。
- 全体としてページ数が多く、内容も難しそうです。勉強がらいの子が増えてしまわないか心配です。特に英語は、1年生の最初がすごく難しそうで気になりました。
- QRコンテンツの数が増えているようです。しかし、あらかじめ用意されたものを利用するだけで、子どもの学びが深まるとは思いません。子どもたちに見せたくないようなものもありました。QRコンテンツが多いかどうかではなく、教科書の本体をしっかり読み比べて、よりよい教科書を選ぶことが大切だと思います。
- ジェンダー平等や性の多様性、多様な家族のあり方にふれた教科書が増えたことを歓迎したいと思います。授業の中でもしっかりと扱ってほしいと思いました。
- どの教科書にも同じような「授業の流れ」が提示され、子どもが発言する内容なども吹き出して書かれていましたが、画一的になってしまわないか気になりました。
- 子どもに、心や態度を自己評価させる欄を作っている教科書が、道徳に限らず増えていると思いましたが、そういうことは押しつけないでほしいと思いました。
- 教科書では真実・真実を大切にしてほしいです。〇〇社、〇〇社、〇〇社の歴史の教科書は、戦争の事実を正確に伝えず、戦争を賛美しているような書き方をしていると思います。これでは困ります。絶対に採択しないでください。
- 〇〇社、〇〇社の公民は、日本国憲法の理念をゆがめ、憲法改正に子どもを導こうとしているような書き方をされていて問題だと思います。絶対に採択しないでください。

2025年度

中学校新教科書を読む

この夏、来年度から中学校で使われる新しい教科書の採択が行われます。採択にかかる教科書は以下の通りです。この冊子は、その特徴をまとめたものです。子どもたちによりよい教科書を手渡せるよう、誘い合って展示会に行き、内容をたしかめ、意見を出すとりくみを広げていきましょう。

教科		発行者	
国語	国語	4	東書、三省堂、教出、光村
	書写	4	東書、三省堂、教出、光村
社会	地理	4	東書、教出、帝国、日文
	歴史	9	東書、教出、帝国、山川、日文、自由社、育鵬社、学び舎、令書
	公民	6	東書、教出、帝国、日文、自由社、育鵬社
	地図	2	東書、帝国
数学		7	東書、学図、教出、啓林館、数研、日文、大日本
理科		5	東書、学図、教出、啓林館、大日本
音楽	一般	2	教出、教芸
	器楽	2	教出、教芸
美術		3	開隆堂、光村、日文
保健体育		4	東書、大修館、学研、大日本
技家	技術	3	東書、教図、開隆堂
	家庭	3	東書、教図、開隆堂
英語		6	東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館
道徳		7	東書、教出、光村、日文、学研、あかつき、日科

子どもと教科書全国ネット 21

● 「QR コンテンツ」は、多いほどよい?!

ほとんどの教科書に多数の「QRコード」があり、タブレットをかざすと、動画やアニメの説明やドリルなど、デジタルの教材を利用することができるようになっています。

「子どもの学習に役立ち、先生も助かる」という声がありますが、あらかじめ用意された教材を利用することが、「主体的な学び」と言えるのでしょうか？



いま使われている教科書のQRコンテンツには、防衛省・自衛隊のキッズサイトなどもあり、慎重な扱いが必要です。

QRコンテンツに振り回されることなく、紙の教科書本体をしっかり読み比べて、よりよい教科書を選びたいものです。

防衛省・自衛隊 KIDS SITE



● 学習量が多く、難しい……

中学校ともなると、学習の量が増え、内容も難しくなっていますが、特に英語は大変です。どの教科書も、最初に小学校での学習をふりかえるページを設定していますが、最初から多くの英文が出てきたり、**be 動詞と一般動詞、can** をまとめて見開き2ページで解説したりなど、「子どもが勉強嫌いになってしまうか」と心配になる教科書もあります。



「戦前の皇国史観を彷彿とさせる」 令和書籍の「国史」教科書

今回新しく採択の対象となった令和書籍（令書）の歴史は「国史」とされ、他社とは違って縦書き、500頁以上もあります。

冒頭に「歴代天皇の皇位継承図」を載せ、神の「国生み神話」から始まり、歴史の教科書というよりは“天皇の物語”です。旧日本軍の零戦や戦艦大和の絵を大きく載せ、沖縄戦の学徒隊は「志願」で、「2800人以上の特攻隊員が散華^{さんげ}」と書くなど、戦前の教科書さながらの戦争賛美の記述が目立ちます。

また、コラム「蒸し返された韓国の請求権」の中では、「日本軍が朝鮮の女性を強制連行したという事実はなく、彼女たちは報酬をもらって仕事をしていた」など、慰安婦問題について1993年の河野談話に真っ向から反する記述があり、内外から批判の声があがっています。



● 「特別の教科 道徳」は？

題材の内容や、子どもに答えさせる問いによって「徳目」の押しつけになっていることなど、基本的な特徴はほとんど変わっていません。授業へのとりくみ方を自己評価する欄が簡素化されたものもあります。日本教科書は、前回、強く批判されていた題材を差し替えましたが、従軍看護師の活動を美化するような題材など、相変わらずの特異な歴史観に基づく編集は重大な問題です。

今学期（今期）の道徳の授業について、振り返ろう。

① 授業での取り組みで、当てはまる場所に○を付けよう。

	とてもそう思う	そう思わない
① テーマについてよく考えた。	_____	_____
② 他の人の意見をよく聞いた。	_____	_____
③ 自分の考えを表現した。	_____	_____
④ 自分の考えが変わったり、深まったりした。	_____	_____

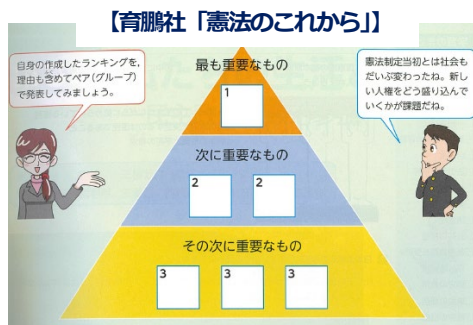
② 戦争の真実を伝えていない



太平洋戦争に「大東亜戦争」と副題をつけ、「**自存自衛の戦争**」「**アジアを解放するための戦争**」と説明。アジアの人々の抵抗があったことや、民衆の苦難をとりあげていません。沖縄戦で「逃げ場を失い、集団自決に追い込まれた」などと、犠牲になった人に責任があるような書き方をしています。(他社は「日本軍によって」と記述しています)

③ 日本国憲法を敵視し、「憲法改正」をおしつける

他国と日本の憲法改正の件数を単純に比較した表を載せ、「**憲法改正が必要だ**」と誘導しています。育鵬社には、「**環境権**」などの新しい権利と「**憲法改正の課題**」を並べ、どれが重要かを発表させようとしています。他社は、**憲法の基本原理を覆すような「憲法改正はゆるされない**」と書いています。



④ 政府見解を押しつけ、子どもに考えさせようとしていない



【日文】北方領土周辺

平和主義について、両論併記をすることもなく、「国民に国防の義務がない**徹底した平和主義は世界的には異例**」と独自の主張を展開。領土問題について「日本人としてどう向き合いますか」と子どもに迫ります。他社は、日本とロシアの見解を並べて考えさせたり、世界の他の地域で領土問題が起こったときに平和的に解決した例を紹介したりしています。

ジェンダー平等、性の多様性、多様な家族

● 「人間の性は『男性』『女性』に分けられるものではない」などの記述が増加

家庭科、保健体育、社会（公民）などで、ジェンダー平等や性の多様性、多様な家族の姿に関する記述が増えています。これは、この間の

人間の性はいくつある？



社会の変化や運動の盛り上がりの反映であり、歓迎すべきことでしょう。

「人間の性は男性と女性のみ」とする学習指導要領の範囲を超えた内容のため、「**発展**」ページへの記載ですが、ぜひ授業でも扱ってほしいものです。

*キャラクターの多様性に配慮した教科書も ⇒⇒⇒



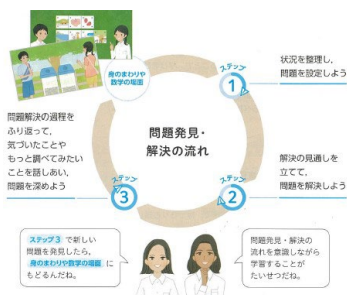
● 多様な家族の姿については、検定による修正も

一方、多様な家族の姿について考えさせようとする記述については、「**学習指導要領に照らして扱いが不適切**」との検定意見がつき、「**法律上の親子関係や夫婦関係ではなくても、お互いに家族のような意識をもって暮らしている場合もあります**」という記述が削除された例がありました。



●授業のながれと内容を細かく提示

どの教科・どの教科書も、「課題をつかむ」⇒「見通しを立てて調べる」⇒「問題を解決する」⇒「ふりかえる」などと学習の進め方が示され、それにそった構成になっています。しかも、「つかむ」課題の内容や「調べる」内容、まとめやふりかえり、話し合いの内容まで、すべて詳しく書かれています。



子どもも先生も、それをなぞっていけば授業になるのかもしれませんが、それでは全国どこでも同じ授業になってしまいます。「学校の授業は、他の人の考えを聞いて、新しい発見があるから、楽しいんだよ」と、子どもは言います。先生が、クラスの子どもたちに合わせて工夫しながら授業できるよう、あまり押しつけないでほしいと思いました。

●「態度」が身についたかどうかを自己評価

学習を終えたあと、その「過程をふり返って、次のような態度をとることができていたかどうか自分で自己評価してみよう」という教科書もあります。

- 1) 数学のよさについて考えようとする態度
- 2) 数学を生活や学習に生かそうとする態度
- 3) 解決の過程をふり返って評価・改善しようとする態度
- 4) 多面的にとらえ考えようとする態度

子どもにとって大切なのは、その学習で何を理解でき、どんな力が身についたか、ではないでしょうか。あるべき態度のおしつけは、「楽しくわかる」学習とは無縁です。



戦争を賛美し、「憲法改正」をおしつける教科書は、子どもたちに手渡せません <育鵬社・自由社・令書>



【育鵬社：歴史・公民】



【自由社：歴史・公民】



【令書：歴史】

子どもの学習のために使う教科書として全くふさわしくなく、手渡したくない教科書が、社会科の歴史で3冊、公民で2冊、採択の対象となっています。なぜふさわしくないのか、4つの問題点を指摘します。

① 研究成果が反映されず、間違いが多くて使いにくい

人類の祖先が登場した時期、鎌倉幕府の成立、江戸時代の対外関係や身分制度など、歴史学の新しい研究成果が、他の教科書には反映されていますが、育鵬社などには反映されず、昔のままの書き方になっています。

「育鵬社」の教科書を使っていた地区の先生と保護者の声



先生

他の教科書の記述と違うことや間違いが多くて困ります。



保護者

受験の時に困るので、別の教科書を買って勉強させました。